

新上越市に新年度予算要求

286項目におよぶ要望書を

提出しました

1月17日、日本共産党上越地区委員会(阿部正義委員長)は、新上越市の2005年度予算に関わって、住民のみなさんから寄せられた286項目の要求を木浦市長に提出しました。内訳は、新市共通の「全体に関わる要求」が32項目、牧区14項目、吉川区100項目、頸城区29項目、旧上越市111項目です。「全体に関わる要求」としては、合併後の各区(旧町村)をどう振興・発展させていくのかという観点から、「住民サービスがどのようになったのか、これまでと何が変わって、何が変わらないのかなど」の説明会を、各区におい



木浦市長に要望書を手渡す

て集落単位で行うこと」などを求めています。各区に関わる要求では、小学生の殺傷事件が起きたことから、「暗い

ので街灯を」という要望がどこからも強く出されているのが、大きな特徴の一つです。それに続いて、「除雪」に対する要望、「道路と側溝の改修・改良」への要望が多く、合併で心配

されていた諸問題が反映する形になっています。

最初に杉本敏宏市議が、地区委員会を代表して要望書を木浦市長に手渡して、概略の説明をしました。その上で、幾つかの要望項目について、各参加者が意見を述べました。



日本共産党上越市議会議員杉本敏宏の

市政レポート

2005年1月23日 72
発行 杉本敏宏事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832

木浦市長に要望する元議員(左から木浦市長、橋爪法一元吉川町議、上野公悦元頸城村議、後藤紀一元大潟町議、手前は杉本敏宏)

上越市は過疎地域になりました

広大な

過疎地域を抱え込んで

一月一日に13町村を編入して21万人余の都市になりましたが、旧上越市の市域で人口が増えたわけではありません。広大な中山間地＝過疎地域を抱え込んだだけです(あたかも旧上越市の人口が増えたかのような錯覚があります)。面積が、佐渡島よりも広く、東京都の約半分という地域に、わずか21万人余ですから、「過疎」そのものです。その結果、新上越市も過疎地域になってしまいました。

過疎地域の特典?、「過疎債」

過疎地域になると、過疎地域自立促進特別措置法に基づいて「過疎債」という借金が認められます。その採択が比較的容易なことと、後年度、元金など



を返済する際に、その分が地方交付税に算入されるという仕組みになっています。その借金をするためには、過疎地域自立促進計画(「過疎計画」)をつくらなければなりません。11日の総務常任委員協議会に新市の「過疎計画素案」が示され、議論されましたが、その中身はまさに「借金するための計画」そのものでした。

過疎計画は

過疎債のための計画ですか

本来、過疎対策のための過疎地域自立促進計画であれば、これまで過疎地域に指定されていた地域に対して、「これこれの施策によってこのようにして自立させます」という計画がなければなりません。そしてその上で、「この中のこの事業は、過疎債を適用して進めましょう。こちらは自主財源で。」とならなければならぬのではないのでしょうか。

そうした真の「自立計画」がなく、単に「過疎債」だけを目的とした計画でいいのでしょうか。「過疎地域の自立と振興」は合併の大義名分の一つだったはずですよ。



雪に埋もれる民家 吉川区上川谷にて(1月16日)

上越市内ですでに
積雪 2.4 mの地域があります

合併で抱えた豪雪地帯。吉川区の最奥、上川谷に行って来ました。原之町では雨でしたが、下川谷ではミゾレになり、ここ上川谷では吹雪でした。途中、いくつもの雪崩の痕がありました。同じ上越市でも、今度はこんなにも違うのです。お年寄りばかりです。「昼前に除雪したんだけど、疲れて昼から休んでんのさ」さあ、どう対応するのですか。